

観光を九州の基幹産業に育てよう

～九州観光推進機構のリーダーシップ発揮に期待～

1. 観光産業を九州経済の成長戦略として取り組む

九州及び日本は、人口減少・少子高齢化・財政赤字などの大きな課題を抱えており、これらの解決策には経済成長が不可欠なものとなっている。観光産業は、その裾野の広さと今後のグローバルな市場拡大の見通しから、経済成長や地域経済の活性化に大きな影響を及ぼし得るとして、成長戦略の中の重要産業の一つに位置付けられている。

こうした中、九州の観光産業の推進役として設立された九州観光推進機構（以下、「機構」）が中心となって、「観光産業を九州の基幹産業とする10年」をキャッチフレーズに、第二期九州観光戦略に取り組んでおり、観光産業の推進を九州経済の成長戦略につなげていくことが重要である。

2. 「訪日インバウンド440万人プラン」を進める

～「ONSEN ISLAND KYUSHU」を統一ブランドに～

機構は、2013年に125万人であった訪日外国人数を2023年には440万人まで増加させることを目標に、「Ⅰ.九州のブランドイメージ、Ⅱ.観光インフラの整備、Ⅲ.九州への来訪促進、Ⅳ.来訪者の滞在&消費促進」を4本の骨子とする第二期九州観光戦略を策定し、九州全域での展開を目指している。

具体的には、まず九州のイメージがはっきりと思い浮かぶようなブランドイメージ戦略に取り掛かり、アジア諸国でのアンケートを踏まえ、九州7県の利害が一致する「温泉」をブランドイメージとし、ロゴマークやキャッチコピー（Relax&Rejoice ONSEN ISLAND KYUSHU）を九州全体で使用することにした。このブランドイメージの統一は、九州の一体感を生むとともに、「温泉」を入りに焼き物、歴史、自然、食べ物など各県それぞれに魅力を持つ他の観光素材に広がりを持たせて九州を海外に発信するための第一歩であり、九州がひとつになったということに大きな意味がある。

一方、観光客による経済効果を見ると、定住者1人分の年間消費は、国内旅行者では24人分、外国人旅行者であれば9人分の各々1回分の消費に相当するとされており、アジアに近い九州の利点を生かし、世界の観光市場でも大きく伸びるアジアからの訪日インバウンドを取り込む戦略が必要である。

そのためには、北海道ニセコ（アウトドアスポーツ）や香川県直島（アート）といった全国の成功事例を参考に海外の旅行者の様々なニーズ（ユーザー目線）をしっかりと捉えることが重要であり、九州の魅力（自然、歴史、食等）を単

なる観光地という『場所』のみではなく、「九州に行けばこれができる!!」という『目的』も併せて、世界的な口コミサイトなどを利用し、積極的に且つ正確に情報発信していく必要があるだろう。

3. 九州各地で観光インフラの整備を急げ

訪日インバウンドの拡大に向けては、LCCや外国クルーズ船の誘致、ビザの緩和など、行政（国や県）への働きかけも不可欠であるが、「無料公衆無線LAN環境（Wi-Fi）の整備」、「コミュニケーション」、「公共交通の経路情報や利用方法」、「両替・クレジットカードの利用」、「飲食店情報の入手」など、「外国人旅行者が旅行中に困ったこと」のアンケートの中には、身近な問題で、早急に整備することが可能なものも挙げられている。

さらに、外国人旅行者に長期滞在してもらうために、地域でいろいろな企画やイベント（ナイトライフを含む）を工夫することにより、一週間滞在しても飽きさせない魅力ある街づくりや一年中季節に合わせて受け入れる態勢を整え、自然や食事など四季折々のおもてなしをすることなど、ハード、ソフト両面からの観光インフラの整備が急がれる。

4. 九州観光推進機構の更なるリーダーシップの発揮を期待する

機構は、法人格のない任意団体として九州が一つになることを目的に活動を行ってきたが、平成26年4月から一般社団法人化するとともに、九州が一つになって活動出来る第二期九州観光戦略を策定した。

また、先般、九州経済連合会を中心とする「九州上海経済ミッション」が上海を訪問した際に、現地の28の有力旅行業者とMOU（覚書）を締結し、これらの旅行業者のニーズに応える形で九州の情報を発信し、九州旅行の商品化につなげていくこととなる。こうした一連の取組みが、民間主導で行われたことは、新しい動きとして大きく評価できよう。

訪日インバウンドに関しては九州7県とも「機構が中心となってリーダーシップを発揮して欲しい。」という意思統一は図られてきている。機構もそれに対して結果を出していかなければならない。

機構には、今後の10年間を見据えた観光戦略の実行、また、2020年東京オリンピック開催後のさらにその10年先である、2030年を見据えて観光を九州の基幹産業に育てるために更なるリーダーシップの発揮を期待するとともに、地域のひとりひとりが、観光客の受け入れに向けた知恵と工夫を出し合うことが地域の活性化につながるものと考えている。

平成26年11月14日

九州の未来力2030

座長 森本 廣